



広安里

発行 釜山日本人学校

釜山広域市水営区民楽洞173-8

TEL 051-753-4166

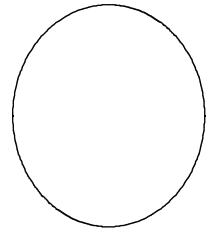
FAX 051-756-4851

<http://user.chollian.net/~pusjpnsc>平成
17年度
第4号

オートバイで考えたこと

釜山日本人会長

高橋 一郎



先日ハノイへ行って来たが、市内ばかりか近郊の農村地帯を走る道路の至る所はオートバイで溢れていた。乗用車、バス、トラックも走ってはいるが、オートバイの数に圧倒され乗用車などは極端に少ない。ハノイでの生活はオートバイなしでは成り立たないといった感じだ。勿論一人乗りもあるが、夫婦、家族、恋人、友人同士での二人乗りから中には子供を含めた三人による相乗りも多く見られた。驚いたことにバイクの若者が自転車の恋人と手を繋いで並行して走り、デートを楽しんでいる光景にも出会った。

人の生活の単位は当たり前だが一人から始まり、これが、二人になり、家族になり、村などの集落に、そして、学校、会社、地域のかたまりに、ひいては国単位となり、互いに支えあいながら生きている。人が自然の摂理の中で生き抜いてきた、しごく当然の智慧であり生存本能の成せる技でもある。人類がこの地上に生の営みを始め数十万年ともいわれる気の遠くなる年月の中で、集落、地域、国という単位の生活による支えあいメカニズムの離合集散が繰り返されてきたのはここ数千年のことである。そしてこの間、人の生活に飛躍的な発展がもたらされた。

また近代に至り、民族、宗教を含む地域を越えた広範な規模での交流、一体感のある社会に向け強い希望と期待が寄せられ、ユニバーサルな支えあいへの理解と熱意が高まってきている。さらに二十一世紀に入って国を超え経済、社会の共同体の構成に向けて地域統合への機運も着実に進みつつある。このことは科学技

術の進歩で地球をより客観的に眺めることができ、一層加速されたのかも知れない。地球船の内部に仕切られた自らを覆う垣根をより強化したいとする考え方と、それとは逆に地球内の境界線を取り外し大きな支えあいへ進みたいとする考え方との間に軋轢が生じている。

世の中にはその生成、発展の度合いが違う国々が存在し、そこには「世界は一つ」の支えあいにまだブレーキを押しつづける国もある。しかし、この唯一無二の大きなかたまりへの道筋を求めなければならないことは誰もがわかっており、人類のこれまでの智慧をふりしぼってその一つの支えあいに向け加速しなければならない。

「愛国無罪」を叫んで国を愛することにおいては何事も許されるとし、ひたすら取りあえずの目標に邁進する人たちがいる。しかしいま多くの人々がユニバーサルな支えあいを求めているとすれば、どうにかしてそれを後退させることは食い止めたいものである。殊に、地球を代表するリーダーたる国はその垣根を乗り越えて、ユニバーサルな支えあいを探り率先してチャレンジすることが求められる。

すでに世界の先進国となった韓国では「ウリナラ」、「ウリ〜」をよく耳にする。これもこれまでの長い歴史の中での支えあいへの智慧であった。しかしすべての地球人がそれぞれのとりあえずの目標に対してではなく「ウリチグー」に向けて舵を大きく切り換えていければ願ったり叶ったりではなかろうか。

